☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　２０１８

毎日新聞　平成３０年９月４日（火）

火災想定 安全守る経験に

避難や消火訓練 氷上西高

煙体験、AED講習も

模擬の消火器で訓練に取り組む生徒たち＝丹波市の県立氷上西高校で

丹波市の県立氷上西高校で3日、校内で起きる火災への防災意識を高めようと、消火や応急対応などを学ぶ訓練があった。1～3年の全校生徒約100人や教職員が参加し、臨場感あふれる体験に汗を流していた。

訓練はまず、全学年による避難から始まった。「1階調理室から出火、延焼の恐れがある」と想定。警報ベルが鳴った後「先生の指示に従ってグラウンドに避難せよ」と校内放送が流された。教職員らが避難誘導や救護活動を分担し、生徒たちは速やかに教室からグラウンドに移動した。

避難訓練の後、1年は煙体験、2年はAED（自動体外式除細動器）講習、3年は消火器の訓練に取り組んだ。

市消防本部の担当者は、避難訓練について「落ち着いて安全に行動できていた。自分や周囲の安全を守る経験にしてほしい」と講評。消火器訓練については「火災は初期消火が大切で、消火器はその時に役に立つ。火元から2メートルぐらいに近づいた後、左右にホースを振って、ほうきで掃くようなイメージで噴射して」とアドバイスした。

生徒会長の2年、浦底椎奈さん(16)は「絶対に必要な訓練で、貴重な体験になった。みんな真面目に取り組んでくれた」と話していた。

丹波で始業式

この日は丹波地域の小中高校の2学期の始業式があり、子どもたちの元気な姿が学校に戻った。氷上西高でも訓練に先立って式があり、全校生の前で高橋信之校長が「できなかったことができるように、やったことがなかったことができるように成長する姿を期待している」と呼びかけた。【丸井康充】